



22112322



**JAPANESE B – HIGHER LEVEL – PAPER 1**  
**JAPONAIS B – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1**  
**JAPONÉS B – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1**

Friday 13 May 2011 (afternoon)  
Vendredi 13 mai 2011 (après-midi)  
Viernes 13 de mayo de 2011 (tarde)

1 h 30 m

---

**TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES**

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1.
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

**LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS**

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'Épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

**CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS**

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la Prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

## 問題 A

ゆきむし  
雪虫と初雪の関係で天気予測  
よそく

「ツバメが低く飛ぶと雨」、「ネコが顔を洗うと雨」。人々はむかしから自然現象<sup>げんしょう</sup>や生き物の行動から天気を予想しようとしてきました。これを観天望気といいますが、今、「雪虫<sup>ゆきむし</sup>がまうと初雪<sup>ゆきむし</sup>が降る」といわれる、雪虫と初雪の関係を研究している会社があります。

遅い秋、まるで初雪が降っているかのように、白くて小さい虫<sup>むし</sup>がたくさん飛びまします。これが雪虫<sup>ゆきむし</sup>です。この雪虫<sup>ゆきむし</sup>が飛んでから初雪が降るまで何日ほどかかるのでしょうか。「ウェザーニュース」という会社は、雪虫<sup>ゆきむし</sup>が初めて飛んでから初雪までの日数が長ければ長いほど、暖冬になるのではないかと考えて、数年前から北海道で市民から情報を集めています。2007年には、雪虫<sup>ゆきむし</sup>が初めて飛んだ17日後の11月2日に初雪が降りました。2008年は、34日後の11月4日に初雪が降りました。2007年の冬は平均的な冬でしたが、2008年の冬は全国的に暖冬でした。

今年は、雪虫<sup>ゆきむし</sup>が飛んでから30日後に初雪が降りました。この結果、ウェザーニュースは、「今年も2008年と同じく暖冬になるかもしれない。」とみています。

今までの研究で分かったことは、その地方の気温が12度～13度に下がった10日ぐらいたいりよう後に雪虫<sup>ゆきむし</sup>が大量に飛ぶことです。気温が12度ぐらいに下がるということは、中国大陸の冷たい空気がその地方に入りこんだことをしめします。これがその冬の寒さと関係するのかもしれませんが。

ゆきむし  
雪虫

## 問題 B

かんこう

## 観光は文化をどう変えるの？



かんこう とよだ ゆき お  
立教大学観光学部 豊田由貴夫研究室



- ① 「観光学とは、観光する人との交流を通して、受け入れる人や地方、文化がどう変わっていくかを考える学問だ。」と豊田教授は説明します。
- ② 例えば、観光客が現地の伝統や文化をこわすことがあります。東南アジアに古くから伝わるおどりを例にして考えてみましょう。「おどりはヨーロッパの観光客に喜ばれるように少しずつ変わっています。観光客はだんだん増えますが、伝統文化は消えていきます。これは現地にとって良い事なのでしょうか。」と豊田教授は問いかけます。
- ③ 豊田教授が授業をする教室をのぞいてみました。学生は25人。最初に学生が用意してきた議題をもとに話し合います。この日は、人と人が話すときの顔の表情や手のしぐさがテーマでした。「ヨーロッパ人はしっかり見ないと失礼に感じるようだ。」という文化の違いから、「子どもをしかるときは、しっかり目を見て話すべきだ。」という意見まで、色々な発言がありました。豊田教授は「違う文化に接するとき、自分の事や、日本人の国民性を知っておくことは重要。」と話しました。授業では議論をしっかりとまとめたり、様々な本を読んだりして、社会を分析する力をつけることを大切にしています。
- ④ 授業の後、学生に色々質問をしてみました。この研究室を選んだ理由には、「小学生のころから英語が好きで、2回も海外ホームステイをしたから。」や、「好きな旅行がさらに好きになれるのではないかと思って。」などがありました。将来の進路は、英語を使った国際的な仕事や観光ガイド、旅行ガイドブックの作成など様々でした。最後に、「大学生になる前にやっておけばよかったと思う事は？」という質問に対して、多くの学生が「読書」と答えました。本を読んで、人の意見を読み取ったり、違う立場から物を考えたりする力は、大学の授業では不可欠なのです。

20 今彼の持っている時計は高価なプラチナの時計ですが、やはり完全な機械ではないとみえて、標準時より一日に三分間遅れるのであります。〈中略〉

ある日、みんなの仕事の休み時間に、彼はポケットから、プラチナの時計を取り出して、どうして遅れるのだろうかということ、ためいきといっしょにだれにむかって言うことなく、嘆じたのであります。

これを聞いていた下級の人たちの中の一人で、

「僕の時計は、感心に正確です。」と、言った者がありました。

25 「どれ、君の時計をちよつと見せたまえ。」

自分の時計を正確だと言った男は、急に、恐縮してしまいました。

「私ののは、ごく旧式で、大きい型のです。」と言って、頭をかくと、みんながこえをたてて笑いました。

その男は別におくするところなく、自分の時計を重役の前に持って行って、テーブルの上においたのであります。

30 彼は、男の差し出した時計を手を取ってながめていました、そして、ふいに、裏側のへこみに目を止めると、おどろきのためにその顔色は変わったのでした。〈中略〉

「君、僕のこのプラチナの時計と交換しようじゃないか。」と、重役は言いました。〈中略〉

「この時計は、私にとっては忘れられない記念の品であります。〈中略〉 私は、この時計を売ったり、交換したりすることはできませんが、あなたが愛してくださるなら、あなたに差し上げます。」と言って、男は、この時計を重役に進呈しました。〈中略〉

35 その日、彼は終日、その時計を前において、じつとながめていました。今まで忘れていた、過去の色々な事が、ありありと目にかんできました。そして、じつと見ているうちに、この時計のにぶいひかりの中から、自分の苦学時代がよみがえり、また、あの男の物語った、あの男の過去がまぼろしとなって、目に映るような気がしました。彼は、なみだぐましい気さえされて、眠る時分には、これをまくらもとにおいて、そのカチカチと秒を刻む音を聞きながら、いつになく安らかな眠りに入ったのでした。

## 問題 C

## 小さいはりの音

小川未明 みめい

あるいなかの小学校に、一人の青年の教師がありました。その青年は、真実に小さな子どもたちを教えたのであります。二年、三年と、青年は、そのさびしい変化の**とぼしいいなかに**いるうちに、いつしか、都へ出て、勉強をして、もつと**出世**をしたいと考えました。先生が都へ行ってしまふと聞いた子どもたちは、目になみだをためて、**うなだれて**いました。みんなは、この親切な先生に別れるのを、心から悲しく思ったのであります。

5 生徒たちは、みんなより集まつて、先生に何か記念品を差し上げたいということを相談しました。何をあげたらいいだろうか？すると、

「先生は、まだ懐中時計を持っていなされない」と、一人が言いました。みんなは、先生の事は、何でもよく知っていたからです。なるほど、そうだった。ながく私たちを記念してもらうために、先生に時計を買ってあげよう、ということになりました。〈中略〉

10 先生は、都会に生まれました。〈中略〉そして、この社会に出る関門であった、難しい試験を受けたのでした。さいわいに彼は、それに合格することができたのであります。〈中略〉

彼の服装は、**今**までとは変わらなければなりません。服装ばかりでなく、一切が変わらなければなりませんでした。彼は、旧型の大きな安時計を下げ、会社に行くことを気はずかしく感じました。〈中略〉

15 彼は、その時計を古道具屋に売りました。そして小さな新型の時計を求めました。さすがに新しい時計を求めて、時計屋から外に出て、**にぎやかな往来**を歩いたときは、彼は、むかし、自分の教師をしていたあのさびしいいなかの小学校と、そのあたりの景色を思い出して、目になみだを流すにはいられたのでした。

けれど、彼にとって、今、むかしのみずばらしい自分の事を考えることは、むしろ苦痛でありました。〈中略〉

さらに、数年の後には、彼は、会社で最もはばのきく重役でありました。〈中略〉

## 問題 D

べにだいず  
紅大豆ヘルシーで「元気!川西」

「地元の特産品：紅大豆で町に元気を！」を目標  
に、紅大豆をはたけで育てる一方、紅大豆加工食品の  
開発・商品化に取り組みました。



私たちの川西町は、農業以外にこれといった産業も  
無く、米価の低下とともに地方の経済は悪化していま  
す。そんな中、古くから作り伝えられてきた紅大豆を町特産品に育てようとの動きが出  
てきました。そこで、紅大豆の加工食品の研究開発を、私たちが引き受けることにしま  
した。開発のポイントは、まず健康に良い紅大豆のヘルシー面を強調することです。次  
に地域を元気にする若者や子どもにアピールする必要があります。そのため、ワッフル  
に目をつけて、紅大豆をたっぷり使い、若者にも注目される健康食品として、ワッフル  
を売れる商品に仕上げることを目的にしました。

健康食品を作るのですから、農薬品は使わないで紅大豆を育てています。とりよけに  
ネットをはったり、雑草をぬいたり、多くの苦労がありました。

ワッフルは先輩からのレシピを使って、少しずつ良くしています。今年からは、  
小麦粉ではなく、県産の米粉を使っています。また、中のドライフルーツなども、今  
年、輸入品から地場産に変えることができました。今年はおやつむきの「フルーツあ  
じ」と朝食用の「プレーンあじ」の二種類を作りました。フルーツあじは、果物のあま  
さを利用し、それが足りないときは、はちみつを少し入れて、さとうは使いません。  
一まい一まいワッフルメーカーでやいて、手作りワッフルを仕上げました。

せっきよくてきに地域に出てワッフルの試食とPRを行っています。例えば、8月の川  
西町の夏祭りにさんかし、持っていった100ふくろを売りつくすことができました。

売れる商品を作る、ということは思った以上に難しいことでした。しかし、ここまで  
開発してきたプロジェクトですから、今後がんばっていきたいと思います。高校生の  
力で、町に名物を、町に元気を、町に笑顔をおくりたいと思っています。

やまがた おいたまのうぎょう  
山形県立置賜農業高等学校三年生